

舞台作品を上映会で観てみよう！そしてダイアログ（対話）する??

「舞台のうえにみえるもの～パパ・タラフマラの軌跡からみる舞台芸術 Vol. 5」

この企画では、舞台作品の記録映像を上映します。観て感じた事、想像したことなどを自由にダイアログ（対話）します。そのとき思い浮かんだこと、ひとに話してみたいこと、どんなことでも構いません。「私は人の話を聴いていたい」等、まわりの人の話すことばに耳を傾けているだけでもいいんです。

毎回、上映作品からイメージしたお菓子も登場しますよ。

日時：2017年4月21日（金）18：30～21：30（途中入退場可）

場所：日立システムズホール仙台 B1F ビデオスタジオ（青葉区旭ヶ丘3-27-5）

参加費：1000円

お問い合わせ：

「舞台のうえにみえるもの～パパ・タラフマラの軌跡にみる舞台芸術実行委員会」

代表）090-1215-8137 佐藤

※予約は不要です。直接会場にお越しください。



「パンク・ドンキホーテ」（2009年）より

～「パパ・タラフマラ」とは～

1982年演出家 小池博史氏を中心に結成されたパフォーミング・アーツ・カンパニー。「ダンス」「演劇」「美術」「音楽」などさまざまなジャンルをあわせて、空間全体を「アート」にする舞台作品を作ってきた。2012年解散。

今回の上映作品 「パンク・ドンキホーテ」

2009年初演。家族というもっとも身近なコミュニティを起点にした作品。明るさと狂気を持つ家長パンドンが、家族を軍隊化する？という哀しくももろい、ある家族の物語。

Vol.2 上映作品「HEART OF GOLD～百年の孤独」に参加された方の言葉

～Vol.2 上映作品「HEART OF GOLD～百年の孤独」について～

ガルシア・マルケスの「百年の孤独」からインスパイアされた作品。現実と非現実の境目を自在に行き来しながら、性欲に溺れ、孤独にもだえる、悲しくも愛しき人間たちを描いた。多様な舞台芸術手法が用いられ、4ヶ国のアーティストが集結して作られた。

「男女のもつれみたいなのなか、大きなアリ（舞台装置）が出てきたり。宇宙の真実みたいなものを、有機的なもので表現しているのかなって。」

「ミュージカルの俳優さんとかはこんなに目をむいたり、ひどい表情をしたりしないですよ。この舞台の使い方にしても、舞台の中心では皆でダンスをしていて、その傍らではまた、違う表現をしている人がいて……。ひとつの舞台の上に、違う次元があるような雰囲気がありますね……。」

「ストーリーを知れば、もうそれでいいという人が増えているよね。そのプロセスのなかにあることはどうでもいいんだというような。小説なんかでも、早く結末が知りたいからば一つと読む人がいますよね。結論をね、情報として知っておきたいとかね。あとは、例えば、その食べ物の味を知ったらそれでいいと……。『味わう』ということが大事だと思うんだけど、『味わいたくない』っていう人も増えてますよね。」

「こういう作品は何も説明がなくて、セリフもほとんどなくて……。自分が取り残されるような、何かから引き離されるような感覚もあるんだけど、この舞台を信じてついて行こうというような。そして、案外ついていけるもんなんだなと思えましたね。」

「オブジェクトも面白いですよ、頭がテレビで出来てるとか。それをどうにでも観客が想像していい。影の演出もかなり工夫してますよね……たぶん。映像で観ると切り取られた部分しかわからないんだけどね」

「公演の内容は意味不明だけど、舞台を観に行くって相当な動機づけです」

「自分はそれまでは引きこもりみたいな生活でした。こういう舞台みたいなのところに出ようと思ったのは…（他の方から、「震災がきっかけだったんですよね？」と）」

「どんなに歳をとっても、こころを揺さぶられるような体験って大切だと思うんですよ。揺さぶられて苦しいくらい体験てね。こういうことが最高のエンターテインメントなのかなと」